

在宅情報マガジン てまり H28.05 号

こんにちは。6月に入り一段と暑くなってきましたね。最高気温が30℃近くになる日が続いていますが、皆様体調の方はいかがでしょうか。今年の高温は世界的なもので、アメリカ宇宙航空局 NASA は 2016 年のかつてない高温を警告しています。インドでは5月下旬に摂氏 51℃を記録、2000 人を超える人が熱波の影響で命を失っています。毎年このまま気温が上がり続ければ地球はどうなってしまうのかと考えてしまいます。

地域交流施設すいせんでは薬剤師のお薬手帳の講演が行われました。お薬手帳をしっかりと管理していると、在宅生活でもしものことがあった場合にとっても役立ちます。今回はお薬手帳のお役たち情報についてお伝えします。

●おくすり手帳とは？

処方された薬の情報を記録し、服用の履歴を管理するために造られた手帳です。使用している薬の名前、量、日数、服用、飲み合わせにおいて注意すること等が記入されています。お薬手帳は薬の飲み合わせの悪さの為に重大な副作用が発生し、14 件の死亡例を出した「ソリブジン事件」を機に 1993 年に導入されました。後の阪神淡路大震災(1995)の際には緊急時における有用性が評価されました。

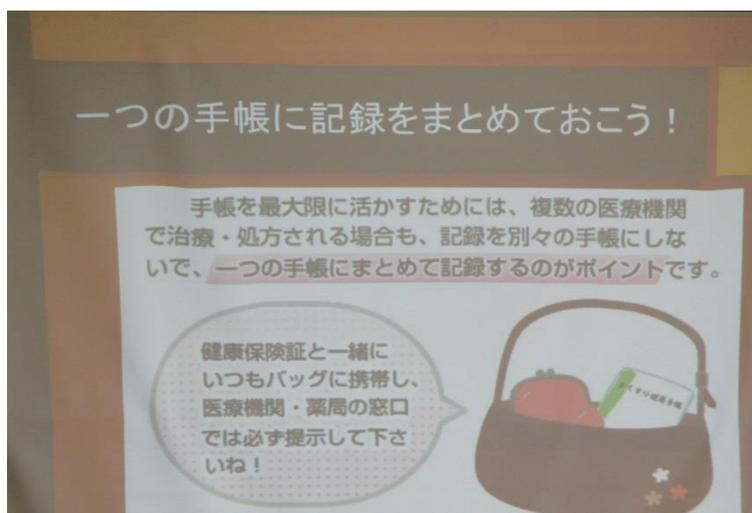
●安心した在宅生活の為のおくすり手帳の管理



5月26日(木)に地域交流施設すいせんにおいて薬剤師によるお薬手帳の講演が行われました。病院にかかっている方はお薬手帳を持っている方も多いと思われます。

安心した在宅生活を送るためにお薬手帳をしっかりと管理しましょう。見落とされがちですがとても重要なことです。もしも

の時の為にお薬手帳をお持ちの方は、普段から紛失しないように携帯されることをお勧めします。また、常に携帯しているものとしてスマートフォンが考えられます。お持ちの方はアプリをインストールして、紙のお薬手帳と同様に使用することができます。※日本薬剤師会のHPからダウンロード可能です。



●東日本大震災の例

2011年に起きた東日本大震災は死者1万5000人、行方不明者4000人を超える被害を引き起こしました。津波の被害を直接受けた地域ではお薬手帳も流されていたケースが多く、医療の現場で混乱を引き起こしました。高血圧や心臓病、糖尿病といった生活習慣病を患っており、薬を服役している方の服薬履歴がわからないために、お薬の処方が困難になってしまったのです。一方で、被災前に使用したお薬手帳を医療機関に持参された方は、使用する医薬品の選択、代替案の提案がスムーズに行えたという例もあります。

●他地域への移動(二次避難、転居)

被災地の避難所から二次避難先など通常の医療体制がある地域に移った場合もお薬手帳の情報によりその後の医療にスムーズに引き継ぐことができます。また、患者さんの病名、診療履歴、治療方針は通常カルテという診療簿で管理されています。もし災害時にこのカルテが紛失された場合には、お薬手帳を手掛かりに速やかに診察することができます。

●コラム 地球温暖化とは？

冒頭で申しあげたように、世界中で気温が上昇しています。温暖化の原因として温室効果ガスという気体が大気中の熱を吸収して、再び地表に放出することがあげられます。温室効果ガスの種類として主に二酸化炭素があります。二酸化炭素を吸収する森林の伐採で自然界が吸収できる二酸化炭素の量をはるかに上回る量が排出されており、大気中に蓄積されていくのが現状です。二酸化炭素は発電や肥料の生産、航空などが主な排出源で、世界的な人口増加とも関連しています。

●大牟田地域住民医療・介護情報共有拠点事務室 OSKER

大牟田の医療・介護施設情報を掲載しています。どなたでも好きな写真を投稿できるギャラリーを製作いたしましたのでご紹介いたします。TEL 0944-57-2007

Web サイト <https://osker.org/>